

## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望等を統計的手法によつて的確に把握し、市政運営の有効な資料とする。

### 2. 調査の設計

- |              |                                 |
|--------------|---------------------------------|
| (1) 調査地域     | 相模原市全域                          |
| (2) 調査対象     | 18歳以上の相模原市在住者                   |
| (3) 標本数      | 3,000人                          |
| (4) 抽出方法     | 住民基本台帳からの等間隔系統抽出                |
| (5) 調査方法     | 郵送調査法（郵送に準じた配付－郵送回収、はがきによる督促1回） |
| (6) 調査期間     | 令和4年6月23日～7月14日                 |
| (7) 調査機関     | 株式会社TDS 横浜営業所                   |
| (8) 有効回収数（率） | 1,426（47.5%）                    |

### 3. 調査の内容

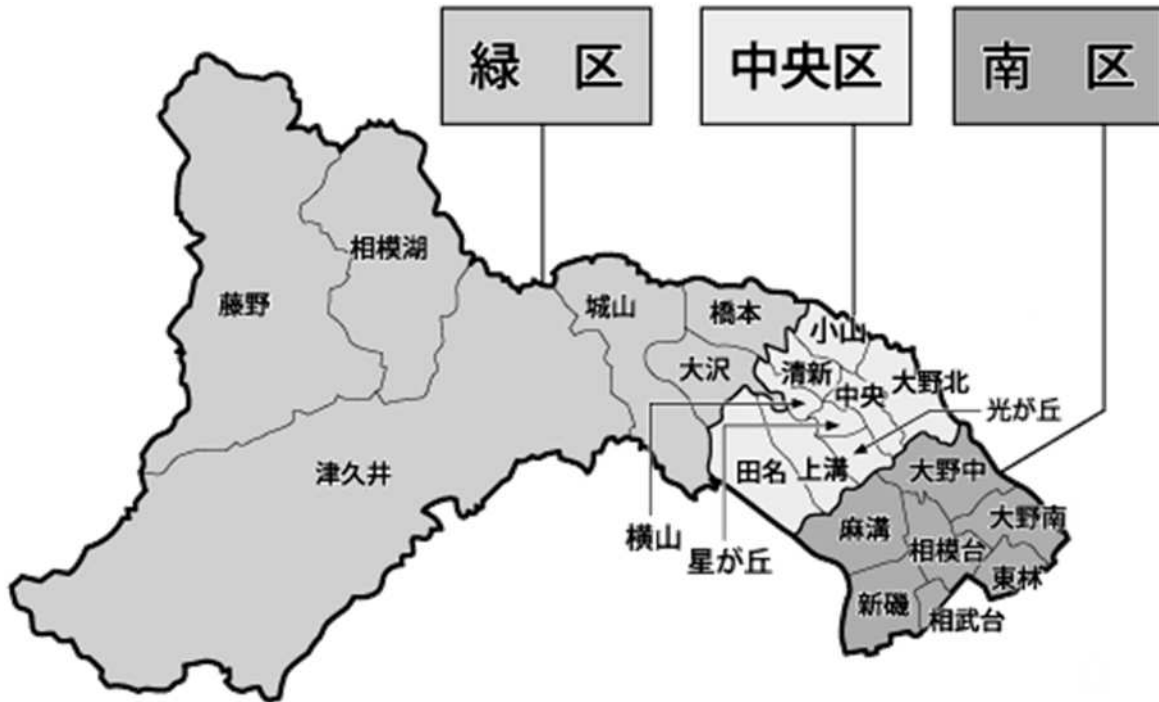
令和4年度 市政に関する世論調査は、9の項目について調査した。

調査項目	設問番号
1 市や区に対する愛着や定住意識について	問1～問3
2 <small>エスディージーズ</small> SDGsについて	問4～問6
3 ユニバーサルデザインについて	問7～問8
4 消防団の認知度について	問9～問16
5 福祉（介護・障害福祉分野）の仕事について	問17～問19
6 公民館について	問20～問25
7 消費生活に関する市民意識調査について	問26～問28
8 スポーツの観戦や支援について	問29
9 自転車の安全利用について	問30～問31
基本属性（年齢、居住地等）	F1～F8

### 4. 区別

地域	地区（対象住所）
1 緑区	橋本地区、大沢地区、城山地区、津久井地区、相模湖地区、藤野地区
2 中央区	小山地区、清新地区、横山地区、中央地区、星が丘地区、光が丘地区、大野北地区、田名地区、上溝地区
3 南区	大野中地区、大野南地区、麻溝地区、新磯地区、相模台地区、相武台地区、東林地区

5. 区別・地区別回収状況



区	地区名	標本数	回収数	回収率
緑区	橋本	298	145	48.7%
	大沢	135	52	38.5%
	城山	32	14	43.8%
	津久井	98	55	56.1%
	相模湖	99	48	48.5%
	藤野	34	20	58.8%
	<b>緑区計</b>	<b>696</b>	<b>334</b>	<b>48.0%</b>
中央区	小山	86	32	37.2%
	清新	132	54	40.9%
	横山	61	34	55.7%
	中央	149	123	82.6%
	星が丘	76	20	26.3%
	光が丘	113	48	42.5%
	大野北	253	96	37.9%
	田名	123	44	35.8%
	上溝	140	66	47.1%
	<b>中央区計</b>	<b>1,133</b>	<b>517</b>	<b>45.6%</b>
南区	大野中	263	105	39.9%
	大野南	332	181	54.5%
	麻溝	75	39	52.0%
	新磯	55	26	47.3%
	相模台	190	75	39.5%
	相武台	80	39	48.8%
	東林	176	86	48.9%
	<b>南区計</b>	<b>1,171</b>	<b>551</b>	<b>47.1%</b>
地区不明	0	24	-	
<b>合計</b>	<b>3,000</b>	<b>1,426</b>	<b>47.5%</b>	

## 6. 集計結果を見る上での注意事項

- (1) 表、グラフのnまたは、( )内の数字は、回答者数のことであり、回答はすべてnを基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計結果の表やグラフは、レイアウトの都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
- (3) 回答の比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。複数回答の設問は100%を超える場合がある。
- (4) 回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (5) 今回の調査結果による標本誤差は下記のとおりである。例えば、回答者数が1,426である回答が50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.65以内(47.35%～52.65%)とみることができる。

### <標準誤差の表>

回答比率 回答者数	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,426	±1.59	±2.12	±2.43	±2.59	±2.65

$$\text{※標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{回答比率} (1 - \text{回答比率})}{\text{回答者数}}}$$

※標本誤差とは、母集団からある数の標本を選ぶとき、選ぶ組み合わせによって統計量がどの程度ばらつくかを、すべての組み合わせについての標準偏差で表したものをいう。